

2017年度 センター試験 本試験 世界史 A

第1問 世界史上の植民地の形成や拡大およびその支配のあり方

出題範囲	古代～近代の政治・外交・社会史
難易度	★★★★☆
所要時間	15分
傾向と対策	Aの問3のような細かい知識を必要とする難問に時間をかけ過ぎて、ほかの問題を考える時間が足りなくならないように気をつけよう。Bでは基本的な知識が多く問われているが、近現代については知識がうすくなりがちなので、普段から注意して学習しよう。また、問6のように単純なグラフ読み取り問題で失点しないよう、ケアレスミスに注意しよう。

A

問1 1 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

世界史上の帝国に関する問題。出題分野は、①中国文明の始まりと中国の統一、②イスラーム世界の再編、③ヨーロッパ諸国の再編、④古代の地中海世界。基本的な知識が問われている。

- ① 誤 後漢を建国したのは劉秀。漢王朝の一族である劉秀は赤眉の乱に加わって新を滅ぼし、後漢を建国したのちに反乱を平定した。ちなみに、ヌルハチは後金を建国した人物。
- ② 誤 イェニチェリは、オスマン帝国の拡大を支えた。イェニチェリは、14世紀末に創設されて以来、オスマン帝国の軍事力の中心として征服事業に活躍した、火砲で武装した常備歩兵軍団。デウシルメによって強制的に徴用したキリスト教徒の子弟を、イスラーム教に改宗させてイェニチェリの一員とした。
- ③ 正 プロイセンを中心に、ドイツ帝国が成立した。1848年のフランクフルト国民議会以来、ドイツでは統一方式をめぐる、オーストリア中心の大ドイツ主義とプロイセン中心の小ドイツ主義が対立していた。しかし、1866年のプロイセン＝オーストリア戦争（普墺戦争）で勝利したプロイセンの主導権が確立し、1871年にプロイセンを中心にドイツ帝国が成立した。
- ④ 誤 ローマ帝国で国教とされたのは、キリスト教。多神教信仰だったローマでは皇帝も神の一人とされ、皇帝崇拝を拒否するキリスト教徒は激しく迫害された。しかしキリスト教は帝国内で拡大を続け、ついに313年にコンスタンティヌス帝によりミラノ勅令で公認され、392年にはテオドシウス帝によって国教とされた。ちなみに、ゾロアスター教が国教とされたのは、ササン朝。

以上より、正解は③である。

問2 2 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

インドの歴史に関する問題。出題分野は、①、②南アジア世界、③南アジア・東南アジアの植民地化、④第一次世界大戦と世界。この問題では、(1)事実誤認の有無、(2)インドに関する記述であるか、の2点を検討したい。

- ① 誤 マウリヤ朝では、**仏教**が保護された。マウリヤ朝の**アショーカ王**は仏教を保護し、ダルマ（法）を理想とする統治を始めたほか、第3回仏典結集を援助した。アショーカ王の王子マヒンダはスリランカへの布教を行った。
- ② 誤 グプタ朝は、**北インド**のマガダ地方を中心に成立した。グプタ朝は**チャンドラグプタ2世**のときに最盛期を迎え、北インドの大半を支配した。
- ③ **正** **インド大反乱**（シパーヒーの反乱）の鎮圧ののち、ヴィクトリア女王を皇帝とするインド帝国が成立した。**1857～59年**のインド大反乱の結果、ムガル帝国は滅亡し、東インド会社は責任を取って解散させられた。1877年以降、ヴィクトリア女王がインド皇帝を兼任したため、インド植民地はインド帝国とよばれた。
- ④ 誤 インドにおいて独立運動を指導したのは、**ガンディー**。ガンディーは、インドにおいて国民会議派の指導者として、非暴力・不服従の無抵抗主義をとнаえて反英独立運動の先頭に立った。ちなみに、ホセ＝リサールはフィリピンにおいてスペインからの独立運動を指導した人物。

以上より、正解は③である。

問3 3 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

オーストラリア連邦が成立した時期に関する問題。出題分野は、第一次世界大戦と世界。この問題では、年号、自治領が成立した順番のいずれかを覚えていなければ正解が難しい。この1問に時間をかけ過ぎないように注意しよう。

オーストラリア連邦は**1901年**にイギリスから自治を認められた。イギリス帝国内の自治領としてはカナダ連邦（1867年）に次ぐ2番目の成立であり、のちにニュージーランド（1907年）、南アフリカ連邦（1910年）、アイルランド自由国（1922年）が続いた。**1931年**に成立した**ウエストミンスター憲章**は各自治領を独立国としてイギリス連邦の一員としたものであり、これによってオーストラリア連邦が成立したわけではないことに注意しよう。

以上より、正解は②である。

B

問 4 4 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

ジャワ島に関する穴埋め問題。出題分野は、南アジア・東南アジアの植民地化、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題。近現代の東南アジアについての知識はおろそかにあいまいになりがちなので注意しよう

ア **強制栽培制度**が入る。ジャワ戦争における出費やベルギー独立によって財政難になったオランダは、1830年にオランダ領東インド（ジャワ島のバタヴィアが中心）で**強制栽培制度**を開始した。オランダは、植民地にコーヒー、サトウキビ、藍、茶などの**商品作物の生産を強制し**、それらを安価で買い上げた。

イ **モノカルチャー**が入る。ジャワ島のように特定の商品作物を集中的に生産していた地域では、多様な産業の発展が阻害され、経済が特定の商品作物の生産と輸出に依存する**モノカルチャー**が進展した。そのため、市場での価格の影響を受けやすく、貧困のリスクが高かった。また、商品作物の多くは主食として不適切なものであるため**飢餓の要因**となった。

以上より、正解は①である。

問 5 5 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

東南アジアの歴史に関する問題。出題分野は、①グローバル化と多極化、②海のネットワーク、③東南アジア世界、④南アジア・東南アジアの植民地化。コラソン＝アキノはあまり出題されない人名ではあるが、ベトナムの歴代王朝をしっかりと把握していれば、正解できただろう。

① 誤 アキノ（コラソン＝アキノ）は、**フィリピン**の首相となった。フィリピンでは、1983年にマルコス大統領の政敵ベニグノ＝アキノが暗殺されると反政府運動が高揚し、1986年のクーデターでコラソン＝アキノ（ベニグノの妻）が大統領に就任した。

② 誤 マラッカ王国は、**イスラーム教**を受容した。マラッカ王国は明と朝貢関係を結んでアユタヤ朝に対抗したが、明が対外活動を縮小すると、15世紀半ばに**イスラーム**に改宗して西方のイスラーム商人と結びつきを深め、東アジアとインド洋を中継する交易都市として繁栄をつづけた。

③ 誤 **シャム（タイ）**で、アユタヤ朝が成立した。アユタヤ朝は14世紀半ばに成立し、南シナ海とインド洋を使用した海洋交易で繁栄した。

④ 正 **ベトナム**で、阮朝が成立した。ベトナムでは、西山の乱で成立した西山朝（西山政権）を、**阮福璜**がフランス人宣教師ピニョーの助けを得て倒し、1802年に全土を統一して阮朝が成立した。

以上より、正解は④である。

問 6 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

1450 年から 1960 年にかけての植民地数の増減を示したグラフ読み取り問題。出題分野は、大西洋世界の展開とアジアへの進出。この問題では、七年戦争の年号さえわかれば、ほかに求められているのはグラフを正確に読み取ることだけだ。七年戦争の年号は基本的な知識なので、確実に正解したい。

- a 誤 グラフから植民地数が初めて 100 を超えたのは 1600～50 年（17 世紀前半）だとわかる。
- b 誤 七年戦争は 1756～63 年の出来事。一方、グラフから植民地数が最大となったのは 1900～50 年だとわかる。

以上より、a-誤、b-誤の組み合わせになる④が正解である。

C

問 7 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

イエズス会に関する穴埋め問題。出題分野は、ルネサンスと宗教改革。不正解だった場合は、プロテスタントの宗教改革の内容や流れも、あわせて復習しておこう。

- ア 16 世紀、プロテスタントの宗教改革に対抗して、カトリックでも対抗宗教改革が始まった。ローマ教会が中心となって、教皇至上権の確認や、禁書目録の制定や宗教裁判所による思想統制など、自己改革を行った。また、イエズス会が海外への伝道において活躍した。ちなみに、レコンキスタはイベリア半島からイスラーム教徒を駆逐しようとした運動。718 年に始まり、1492 年にナスル朝の都グラナダの征服をもって完成した。
- イ 日本で布教したイエズス会宣教師はフランシスコ＝ザビエル。スペイン出身のフランシスコ＝ザビエルは、インド・東南アジアでの布教ののち、1549 年に鹿児島において日本で初めてキリスト教の伝道を行った。ちなみに、イグナティウス＝ロヨラはイエズス会創設メンバーの代表的人物で、ザビエルらとともにイエズス会を創設した。

以上より、正解は④である。

問 8 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

アメリカ大陸の先住民に関する正誤問題。出題分野は、a ヨーロッパ世界の拡大、b アメリカ大陸の動向。b のムラートはやや難しいが、クリオーリョやメスティーンに関しては過去に出題がある。あわせて復習しておこう。

- a **正** **ラス＝カサス**は、先住民（インディオ）の保護を訴えた。ラス＝カサスはスペインのドミニコ派修道士で、ラテンアメリカのスペイン植民地におけるインディオの惨状を『インディアスの破壊についての簡潔な報告』で告発した。
- b **誤** ムラートは、**白人と黒人の混血**である。ラテンアメリカ諸国の住人は人種的身分集団を構成し、ムラートのほかにも、ペンスラール（ヨーロッパ生まれの白人）、クリオーリョ（現地生まれの白人）、メステイソー（白人と先住民の混血）、サンボ（先住民と黒人の混血）などが存在する。

以上より、a－正、b－誤の組み合わせになる②が正解である。

問 9 9 **正解は②**

難易度 ★★★★★

解説

南北アメリカに存在した植民地の歴史に関する問題。出題分野は、①、③、④アメリカ大陸の動向、②大西洋世界の展開とアジアへの進出。南アメリカ植民地の独立では、独立した国と指導者を間違えて組み合わせないように注意が必要。「整理 南アメリカ植民地の独立運動と指導者」を参考にしてほしい。

- ① **誤** ブラジルは、**ポルトガル**から独立した。1807 年にポルトガルがナポレオンによって占領されると、ポルトガル王室は植民地であったブラジルに避難した。ナポレオン失脚後、ポルトガル王は本国に帰還したが、摂政として残った王子が 1822 年に皇帝に即位し、ブラジル帝国としてポルトガルから独立した。
- ② **正** **ルイジアナ**は、フランスの植民地であった。ミシシッピ川流域のルイジアナは、1682 年にフランス領となり、ルイ 14 世にちなんでルイジアナと命名された。**1763 年のパリ条約**でミシシッピ川以東のルイジアナはイギリスに、ミシシッピ川以西のルイジアナはスペインに譲渡された。
- ③ **誤** **ハイチ**で、**トゥサン＝ルヴェルチュール**（トゥサン＝ルヴェルテュール、トゥサン＝ルーヴェルテュール）が、反乱を起こした。フランスの植民地だったハイチでは、18 世紀末にフランス革命の影響を受けて、トゥサン＝ルヴェルチュールを指導者とする黒人奴隷の反乱が起こった。反乱は独立運動へと発展し、ハイチは 1804 年に独立を達成して、史上初の黒人共和国となった。
- ④ **誤** **サン＝マルティン**は、**スペイン**からの独立運動を指導した。ナポレオンによってスペインが占領されると、スペイン本国の支配が弱まり、南アメリカ南部ではサン＝マルティンの指導で、北部では**シモン＝ボリバル**の指導で多くの植民地が独立を達成した。

以上より、正解は②である。

◆整理 南アメリカ植民地の独立運動と指導者

トゥサン＝ルヴェルチュール：ハイチ

シモン＝ボリバル：コロンビア、ベネズエラ、エクアドル、ボリビア

サン=マルティン：アルゼンチン，チリ，ペルー
イダルゴ：メキシコ

(的場光紀，高荷圭太郎，谷口昂輝)

2017年度 センター試験 本試験 世界史 A

第2問 ヨーロッパのキリスト教世界

出題範囲	古代～現代の政治・社会・文化史
難易度	★★★★☆
所要時間	10分
傾向と対策	日本とかかわりのあった国々を中心に、幅広い分野・時代について出題されている。Aは中国・朝鮮の歴史。朝鮮半島の歴史は一度自分なりにまとめてみるとよいかも。Bではおもにヨーロッパの文化史が問われている。文化史は覚えることが多いが、少しずつ学習を進めていこう。Cは中国史に関する問題。問9では仏教について問われている。仏教に限らず宗教は政治・社会・文化の歴史と深いかわりをもつ。世界史を学習する際には宗教に着目してみるのもよいだろう。

A

問1 10 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

朝鮮半島の歴史に関する問題。出題分野は、①東アジア文化圏の形成、②東アジア世界の動向、③東アジアの激動、④戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立。確実におさえておきたい基本的な知識が問われているので、各選択肢に関係する事柄について不安要素がある場合はしっかり復習しておこう。

- ① 誤 朝鮮半島を統一したのは、百済ではなく**新羅**である。新羅は唐と結んで百済、高句麗を滅ぼし、676年に朝鮮半島を統一した。
- ② 誤 訓民正音（ハングル）が作られたのは、高麗ではなく**李氏朝鮮**においてである。15世紀前半の**世宗**の時代に訓民正音が制定された。世宗は金属活字による出版、儒学の振興などの文化事業を積極的に行った。
- ③ 正 **甲申政変**は、親日・改革派の**独立党**（開化派）が親清・保守派の**閔氏政権**（事大党）を打倒した政変である。独立党の中心人物が**金玉均**であった。
- ④ 誤 朝鮮民主主義人民共和国の初代首相は**金日成**である。ちなみに、李承晩は大韓民国の初代大統領である。
- 以上より、正解は③である。

問2 11 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

中国の王朝の名とその最大領域を問う組み合わせ問題。出題分野は、東アジア世界の動向。地図を用いた問題

には苦手意識のある人もいるかもしれない。資料集などでこまめに地図を確認するようにしよう。

15 世紀後半に北京に都を置いていた王朝は、明 (1368～1644 年)。漢は B.C.202～220 年 (8～18 年には新が成立) に存続した王朝であり、都は長安 (西安)。明の最大領域は b である。ポイントとなるのは、a の地図において中央アジアや朝鮮半島北部までもが支配領域に含まれていること。a は唐の支配領域を示す。明代には朝鮮半島に李氏朝鮮が成立していた。ちなみに、明の支配領域が最大となったのは永楽帝の時代である。

以上より、正解は④である。

問 3 12 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

日本と朝鮮半島との関係に関する問題。出題分野は、a 東アジアの激動、b アジア諸国の改革と民族運動。センター試験において日本に関する問題は頻出である。中国・朝鮮との関係はもちろん、近代以降の欧米・アジア諸国との関係についてもよく復習しておこう。

- a 正 江華島事件 (1875 年) は、日本の軍艦が朝鮮半島沿岸で挑発的な行動をとり、朝鮮軍との衝突を起こした事件。この事件を受けて 1876 年に日朝修好条規が結ばれた。この条約は釜山・仁川・元山の 3 港を開港すること、日本の領事裁判権を認めることなどを定めており、朝鮮に不利な不平等条約であった。
- b 正 日本は 1910 年に韓国を併合した際、朝鮮総督府を設置した。朝鮮総督府は朝鮮の軍事や行政のすべてを統括した。第 2 次日韓協約後に設置された統監府と混同しないように注意しよう。

以上より、a-正、b-正の組み合わせになる①が正解である。

B

問 4 13 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

地動説に関する穴埋め問題。出題分野は、①、③ルネサンス、②主権国家の形成、④古代の地中海世界。この問題では選択肢として様々な時代の人物が登場しているので、各人物が活躍した時代の文化について復習してみるとよい。文化史は覚えるべき事項が多いので、スキマ時間などを利用して少しずつ学習していこう。

- ① コペルニクスは地動説を唱えた。コペルニクスはポーランドの天文学者で、『天球回転論』を著して地動説を唱えた。しかし当時の世界では、地球を宇宙の中心と考える天動説が教会に公認されて信奉されていたため、彼の説は受け入れられなかった。
- ② グロティウスは 17 世紀のオランダで活躍した人物で、『海洋自由論』や『戦争と平和の法』などの著作で知られる。
- ③ エラスムスはルネサンス期に『愚神礼賛』を著した人文主義者で、宗教改革に大きな影響を及ぼした。
- ④ ソクラテスはアテネの哲学者。客観的真理を追究し、「知徳合一」を説いた。

以上より、正解は①である。

問5 14 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

海底電信ケーブル（海底ケーブル）が初めて敷設された時期に関する問題。出題分野は、19世紀欧米の文化。海底電信ケーブルについては、よく知らなかった人もいるかもしれない。このように教科書などに載っていない事項については、問題で見かけたときに覚えてしまうとよい。

海底電信ケーブルが世界で初めて敷設されたのは1851年のことである（イギリス－フランス間）。この年号を覚えておく必要はないが、大体の時期だけでも頭に入れておこう。

以上より、正解は①である。

問6 15 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

18世紀のヨーロッパの政治状況に関する問題。出題分野は、重商主義と啓蒙専制君主。このタイプの問題は、(1)文章自体に誤りがないか、(2)その文章が指定された時代・地域のことを述べているかの2点を検討する必要がある。この問題では(1)だけを検討すれば正解を導くことができるが、年代の知識が必要になる場合もあるので注意しよう。

- ① 誤 ヨーゼフ2世は18世紀にオーストリア皇帝に即位した。啓蒙専制君主として、宗教寛容令、農奴解放令を發布して上からの近代化を進めた。
- ② 正 1772年に、プロイセン、オーストリア、ロシアによる第1回ポーランド分割が行われた。第2回は1793年にプロイセンとロシアが、第3回は1795年にプロイセン、オーストリア、ドイツが行った。コシューシコが義勇軍を率いてポーランド分割に抵抗したことも思い出しておこう。
- ③ 誤 王権神授説は、16～18世紀のイギリスやフランスで唱えられた、国王の権力を絶対化する考え方。代表的な提唱者としてはフランスのボエダン、ボシュエ、ルイ14世やイギリスのフィルマー、ジェームズ1世などがいる。ルソーは18世紀のフランスで社会契約説を唱えた人物。『社会契約論』を著し、フランス革命に大きな影響を与えた。
- ④ 誤 18世紀のイギリスで責任内閣制が始まった。これは議会の多数派が内閣を組織し、議会に対して責任を負うというもの。

以上より、正解は②である。

問7 16 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

19世紀後半の印象派（後期印象派）の画家に関する問題。出題分野は、①、②ルネサンス、③、④19世紀欧米の文化。この問題のキーワードは「印象派（後期印象派）」、「19世紀後半の画家」である。このように、19世紀の文学・芸術については古典主義、ロマン主義、印象派などの分類もあわせて覚えていないと正解できない問題もあるので注意しよう。また、ルネサンス期以降の文化史には非常に多くの画家が登場する。資料集などで作品も確認しながら、混同しないようにしっかり覚えておきたい。

- ① ラファエロはルネサンス期の画家で、聖母を描いた絵画で知られる。
- ② レオナルド＝ダ＝ヴィンチはルネサンス期の人物で、『モナ＝リザ』などを残したほか、技術者や医者としても活躍した。
- ③ ダヴィドは古典主義の画家で、『ナポレオンの戴冠式』で知られる。
- ④ ゴッホは19世紀後半の印象派（後期印象派）の画家で、浮世絵の影響を受けた絵画を残した。代表作は『ひまわり』。なお、後期印象派の画家としてはほかに、セザンヌやゴーガンがいる。

以上より、正解は④である。

C

問8 17 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

モンゴル帝国の歴史に関する問題。出題分野は、モンゴルの大帝国。誤っている選択肢を選ぶことに注意する。モンゴル帝国についての基礎的な知識が身につけていれば一瞬で解ける問題である。しかしそのような問題だからこそ、問題文をよく読むことはもちろん、正解がわかったあともすべての選択肢に目を通すようにしよう。

- ① 誤 モンゴル帝国は、唐ではなく南宋を滅ぼした（1279年）。モンゴル帝国はほかにも、ホラズム＝シャー朝（1220年）、西夏（1227年）、金（1234年）を滅ぼしている。
- ② 正 チンギス＝ハンの息子チャガタイは、中央アジアにチャガタイ＝ハン国を建てた。チャガタイ＝ハン国は内紛で東西に分裂したあと、ティムールに滅ぼされた。モンゴル帝国時代に建てられた他のハン国として、キプチャク＝ハン国、イル＝ハン国があるので確認しておこう。
- ③ 正 フビライはモンゴル帝国の第5代のハンである。相続をめぐった親族間の争いであるハイドゥの乱が起こり、30年以上続いた。フビライは大都（現在の北京）に遷都し、1271年に国号を元としたのち、南宋を滅ぼした。また、日本に遠征し、パガン朝に侵入するなど積極的な対外政策を展開した。
- ④ 正 元代には駅伝制（ジャムチ）が整備された。これにより、領域内の交通の便が良くなり、東西交流が発展した。

以上より、正解は①である。

問9 18 正解は②

難度 ★★★★★

解説

各王朝における仏教の地位に関する問題。出題分野は、①東南アジアの諸文明、②東アジア文化圏の形成、③、④インドの古典文明。この問題のように「仏教」というキーワードと関連させて、さまざまな王朝の歴史が問われることがある。こういったかたちで問われても混乱しないように頭の中でしっかり整理しておくことが必要である。②の鑑真について世界史の教科書などで見かけることは少ないが、小中学校の歴史の授業で習って覚えていた人が多いだろう。

- ① 誤 ビルマのパガン朝(1044～1299年)は、スリランカとの交流により上座部仏教を受容し、国教化した。
- ② 正 唐の僧である鑑真は、奈良時代の日本に渡った。
- ③ 誤 アジャンター石窟寺院は、インド西部にある仏教遺跡である。パミール高原は中央アジア東南部にある。知らなかった人はこの機会に覚えよう。
- ④ 誤 カニシカ王はクシャーナ朝の王で、仏典結集などで知られるように仏教を保護している。

以上より、正解は②である。

問10 19 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

中国東北地方への日本の侵略とその影響に関する穴埋め問題。出題分野は、世界恐慌とファシズム諸国の侵略。明治時代以降の日本の朝鮮・中国進出に関して、数多くの地名や事件が登場する。いつ、どこで、どのような事件が起こり、どのような影響があったのか、混同しないようにしっかりおさえておこう。

ア 柳条湖が入る。1931年、日本の関東軍は柳条湖で鉄道爆破事件を起こし、中国東北地方を占領した。これが満州事変である。

イ 西安が入る。共産党との闘争を重視して日本の侵略に抵抗しない蔣介石を説得するため、張学良は蔣介石を西安で軟禁した。これが西安事件(1936年)である。蔣介石は説得を受けて、共産党と協力して日本に対抗することに同意した。これにより第2次国共合作が成立し、抗日民族統一戦線が結成された。

以上より、正解は②である。

(町田佳奈子, 高荷圭太郎, 谷口昂輝)

2017年度 センター試験 本試験 世界史 A

第3問 ヨーロッパのキリスト教世界

出題範囲	古代～近代の政治・社会・文化史
難易度	★★★★☆
所要時間	15分
傾向と対策	ヨーロッパ世界とそれに関連するアジアおよびイスラーム世界についての問題。Aは教科書太字レベルの基本問題であるので全問正解したい。Bでは世界史上の出来事の年代に関する知識が必要とされた。重要な出来事が起こった年代を覚えておくと、センター世界史では格段に点を取りやすくなる。語呂合わせを用いるなど工夫しながら覚えていくとよい。

A

問1 20 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

キリスト教と政治との関係についての問題。出題分野は、①中世ヨーロッパ世界、②、③ルネサンスと宗教改革、④東アジア世界の発展。特に近世以前のヨーロッパでは、キリスト教と政治は切り離すことができない。キリスト教と政治の関係についての問題は頻出であるため、不安要素があれば復習しておこう。

- ① 正 神聖ローマ皇帝ハインリヒ 4 世は、教皇グレゴリウス 7 世が聖職叙任権を主張したことに反発した。しかし、グレゴリウス 7 世から破門されたため、ハインリヒ 4 世は許しを乞うてグレゴリウス 7 世に謝罪した(カノッサの屈辱)。こうした皇帝と教皇の対立を叙任権闘争とよぶ。ちなみに、グレゴリウス 7 世は、聖職売買や聖職者の妻帯を禁止するなどの修道院改革を積極的に推進した。
- ② 誤 ルターの宗教改革は神聖ローマ皇帝による弾圧を受けた。ルターは「九十五カ条の論題」で贖宥状しよくゆうじょうの販売を批判したことで教皇から破門され、皇帝からヴォルムス帝国議会に呼び出された。ちなみにルターを保護したのはザクセン選帝侯である。
- ③ 誤 イギリス国教会を創設したのはヘンリ 8 世である。ヘンリ 8 世は、王妃との離婚問題で教皇と対立し、首長法(国王至上法)を発布してイギリス国教会を設立した。ちなみに、チャールズ 1 世はステュアート朝のイングランド王で、専制政治を行ってピューリタン革命を招き、1649 年に処刑された。
- ④ 誤 雍正帝は、キリスト教の布教を禁止した。清朝ではイエズス会の宣教師が重用され、キリスト教の布教が盛んに行われた。イエズス会宣教師たちは孔子の崇拝などの中国文化を尊重して布教していたが、他派の宣教師が反発し、教皇もこれを禁止した(典礼問題)。この動きに対して清の雍正帝はキリスト教の布教を禁止した。

以上より、正解は①である。

問2 21 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

国家と労働者との関係に関する問題。出題分野は、①ヨーロッパ諸国の再編、②、④ヨーロッパ市民社会の成立、③第二次世界大戦と世界。産業革命以後、各国で労働問題がどのように展開したのか再度確認しておこう。また、その際に社会主義の歴史についても復習するとよい。

- ① 誤 ドイツで保険制度（社会保険制度）を整備したのは**ビスマルク**である。ビスマルクの政策は「アメとムチ」といわれる。**社会主義者鎮圧法**（1878年）によって社会主義運動を抑圧する一方で、疾病保険、災害保険などの保険制度を整備した。ちなみに、カヴールはサルデーニャ王国の首相としてイタリア統一を指導した人物である。
- ② 正 **ルイ＝ブラン**は**二月革命**で活躍し、臨時政府の一員として国立作業場の設立に尽力した。国立作業場は失業者を救済するために設立された機関である。
- ③ 誤 **ワグナー法**は、**労働者の団結権と団体交渉権を認める目的で成立**した。団結権、団体交渉権を認めることはすなわち労働運動を認めることであるから、労働運動を抑える目的というのは誤りである。ワグナー法は、世界恐慌に直面したアメリカ合衆国において1935年に制定された。
- ④ 誤 イギリスでは、**工場法**により労働条件の改善が試みられた。工場法は**ロバート＝オーウェン**の尽力により、1833年に制定された。ちなみに権利の章典は、名誉革命時に権利の宣言が法文化されたもので、王権を制限して議会の権限を定めたものである。

以上より、正解は②である。

問3 22 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

世界史上の身分や社会階層に関する問題。出題分野は、a 南アジア世界、b ヨーロッパ諸国の再編。この問題で問われているインドやプロイセンに限らず、世界史においては身分を表す用語がたくさん登場する。混同しやすいものも多いのでしっかり整理して覚えよう。

- a 誤 インドのヴァルナ制において、人は**バラモン（司祭）**、**クシャトリア（武士）**、**ヴァイシャ（農民・牧畜民・商人）**、**シュードラ（隷属民）**の4つの身分に分けられるとされた。
- b 正 **ユンカー**はドイツの地主貴族を指し、プロイセン社会の中心勢力であった。

以上より、a-誤、b-正の組み合わせになる③が正解である。

B

問4 23 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

民族や信仰の違いにもとづいて実施された政策に関する問題。出題分野は、①東アジア世界の発展、②主権国家の形成、③イスラーム世界の再編、④イスラーム世界。どの国家がどの宗教・宗派を保護または迫害したのかをしっかりとおさえられているかが正解のカギとなる。イスラーム教やキリスト教には複数の宗派があるので、特に注意して学習に取り組みたい。

- ① 誤 清は、漢人男性にも^{べんげつ}辮髪を強制した。敵と味方を区別する目的で行われ、これを拒否することは清朝への反抗とみなされた。
- ② 誤 ナントの王令は、1598年にブルボン朝のアンリ4世が発布したもので、ユグノーに信仰の自由を認めたもの。ナントの王令によってユグノー戦争が終結し、フランスの国家としての統一が維持された。ちなみにルイ14世は、1685年にナントの王令を廃止した。
- ③ 誤 ムガル帝国第3代皇帝のアクバルは、イスラーム教とヒンドゥー教の融合を目的として、ヒンドゥー教徒に対する人頭税（ジズヤ）を廃止した。ちなみに、これを復活させたのは第6代皇帝のアウラングゼーブ帝である。
- ④ 正 ウマイヤ朝はアラブ人を優遇する政策をとったことから、アラブ帝国ともよばれた。アラブ人はジズヤ、ハラージュをとともに免除された一方で、異民族は改宗の有無にかかわらずどちらも課された。ちなみに、アッバース朝はイスラーム帝国とよばれ、イスラーム教徒であれば民族に関係なく平等に税が課された。

以上より、正解は④である。

問5 24 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

デューラーが生まれた世紀に起こった出来事に関する問題。出題分野は、①、②中世ヨーロッパ世界、③主権国家の形成、④東アジア世界。問題文にあるように、デューラーが生まれたのは1471年、つまり15世紀である。④については大体の時代がわかればよいが、①、②、③の出来事の年号はしっかりと覚えておきたい。

- ① 誤 第1回十字軍が始まったのは1096年。セルジューク朝の脅威に直面したビザンツ皇帝がローマ教皇に救援を要請したことを契機として、1095年のクレルモン宗教会議において十字軍の派遣が提唱された。
- ② 正 ビザンツ帝国が滅亡したのは1453年。オスマン帝国のメフメト2世は、コンスタンティノープルを陥落させてビザンツ帝国を滅ぼした。
- ③ 誤 三十年戦争は1618年に始まり、1648年に終結した。三十年戦争はベーメンの新教徒の反乱がきっかけとなって起こったが、ハプスブルク家対フランスといった宗教的対立を超えた世俗的な争いでもあった。
- ④ 誤 バトウがヨーロッパに侵入したのは、「モンゴルの世紀」ともよばれる13世紀である。このことは、

1241年にワールシュタットの戦いが勃発したことからわかるだろう。ヨーロッパへの遠征から帰る途中、バトゥはサライを都としてキプチャク＝ハン国を建てた。

以上より、正解は②である。

問6 25 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

トルコの歴史に関する問題。出題分野は、a 東西対立と両陣営の形成、b 第一次世界大戦と世界。19世紀以降については特に、ヨーロッパ諸国との関係にも留意して学習しよう。

- a 正 1952年、トルコ共和国はNATOに加盟した。この知識をもっていなかった人もいるかもしれないが、この機会に覚えてしまうとよい。
- b 誤 ローマ字を採用したのはトルコ共和国のムスタファ＝ケマルである。彼はスルタン制を廃止してオスマン帝国を滅ぼし、トルコ共和国の初代大統領となった。ローマ字の採用のほか、政教分離や女性参政権の実施などの近代化政策を行った。

以上より、a－正、b－誤の組み合わせになる②が正解である。

問7 26 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

オスマン帝国の勢力後退を示す17世紀末の出来事に関する問題。出題分野は、①オスマン帝国の動揺と民族の自覚、②フランス革命とナポレオン、③ヨーロッパ市民社会の成立、④大西洋世界の展開とアジアへの進出。カルロヴィッツ条約という名前とその年代を知っているかどうかポイント。オスマン帝国とヨーロッパ諸国の関係について、不安要素がある場合はよく復習しておこう。

- ① 正 カルロヴィッツ条約は、1699年に結ばれた、オスマン帝国がオーストリアにハンガリーなどを割譲することを定めた条約。
- ② 誤 ナポレオンのエジプト遠征は1798～99年に行われた。遠征の目的はイギリスとインドとの連絡を絶つことであった。なお、エジプト遠征の年代を知らなくても、ナポレオンが活躍したのは18世紀末～19世紀初頭であることから、誤りであるとわかる。
- ③ 誤 神聖同盟は1815年、ロシアのアレクサンドル1世の提唱で成立した同盟である。イギリス・オスマン帝国・ローマ教皇を除くすべてのヨーロッパ諸国によって構成され、ウィーン体制の維持・強化を目的とした。
- ④ 誤 ヨーロッパ諸国が東インド会社を設立したのは、16世紀末～17世紀初頭。イギリスは1600年に、オランダは1602年に、フランスは1604年に東インド会社を設立した。なお、フランス東インド会社は、1664年にコルベールによって再建されるまで活動停止状態だった。

以上より、正解は①である。

(町田佳奈子, 林遼河, 谷口昂輝)

2017年度 センター試験 本試験 世界史 A

第4問 第二次世界大戦以降の国際関係の展開

出題範囲	古代～現代の政治・社会・文化史
難易度	★★★★☆
所要時間	15分
傾向と対策	2017年度の第4問は、第二次世界大戦以降の国際関係についての問題。Aの問3のように特定の地域における国々の関係についての問題もあれば、Bの問5のように広範な地域での国際関係についての問題もある。特に近代以降は、国どうしの対立や協力が全世界規模に拡大したため、国際関係が複雑化した。どの時代にどのような国際関係があったのかをおさえるようにしよう。

A

問1 27 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

戦間期（両大戦間期）に国際社会で起こった出来事に関する問題。出題分野は、①ヨーロッパ市民社会の成立、②ヨーロッパ諸国の再編、③第二次世界大戦と世界、④第一次世界大戦と世界。それぞれの選択肢の出来事が起こった正確な年号を知らなくても、前後に起こった重大な出来事について知っていれば、正解することは容易であろう。

- ① 誤 ウィーン体制が成立したのは、ナポレオン戦争後（1815年）。1814年のウィーン会議以降、オーストリアのメッテルニヒの主導で、保守反動的なウィーン体制が形成された。
- ② 誤 国際赤十字社が設立されたのは、イタリア統一戦争後（1864年）。スイスのデュナンは、クリミア戦争におけるナイティンゲールの看護活動に刺激され、イタリア統一戦争で傷病兵の看護に従事した。1864年には彼の発案で国際赤十字社が設立された。
- ③ 誤 国際連合憲章が採択されたのは、第二次世界大戦中（1945年）。国際連合憲章は1945年6月のサンフランシスコ会議で採択され、その結果10月に国際連合が発足した。
- ④ 正 戦間期に、ロカルノ条約が調印された（1925年）。ロカルノ条約は、国際協調の一環としてドイツを含む7カ国で締結された集団安全保障条約。この条約により、ドイツの国際連盟への加盟が実現した。

以上より、正解は④である。

問2 28 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

チャーチルの事績に関する問題。出題分野は、①、③、④第二次世界大戦と世界、②社会主義の後退と冷戦の終結。チャーチルはイギリス首相として第二次世界大戦を乗り越え、終戦後には「鉄のカーテン」の演説を行ったことでも有名である。また、誤っている選択肢についても、誰の事績について述べているのかを確認しておこう。

- ① 正 チャーチルは、米ソ首脳とヤルタ会談を行った。ヤルタ会談は1945年に行われ、国際連合の設立、ドイツの分割統治、ソ連の対日参戦などが決定された。
- ② 誤 ゴルバチョフとマルタ会談を行ったのは、ブッシュ（父）。1989年のマルタ会談の結果、冷戦の終結が宣言された。
- ③ 誤 ナチス＝ドイツに対して宥和政策を進めたのは、ネヴィル＝チェンバレン。ネヴィル＝チェンバレンは宥和政策をとり、外交上の譲歩によって戦争を回避しようとしたが、失敗した。
- ④ 誤 ラテン＝アメリカ諸国に対する善隣外交を展開したのは、フランクリン＝ローズヴェルト。ローズヴェルトは、世界恐慌の中でアメリカの経済圏を確保するべく、ラテンアメリカ諸国への介入と干渉をやめ、善隣外交を展開して関係改善に努めた。

以上より、正解は①である。

問3 29 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

今日のヨーロッパ連合につながる統合の流れに関する年代並び替え問題。出題分野は、ヨーロッパ・日本の復興。ヨーロッパの統合についての問題は頻出なので、EU成立までの各段階における組織と、その構成国をしっかりと覚えておこう。

- a ヨーロッパ共同体（EC）が発足したのは、1967年。ECは1967年にECSC、EEC、EURATOM（ヨーロッパ原子力共同体）の3つを統合するかたちで発足した。
- b ヨーロッパ経済共同体（EEC）が発足したのは、1958年。EECはローマ条約により、1958年にECSCから発展するかたちで発足した。経済統合の対象をすべての商品へと拡大した。
- c ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）が発足したのは、1952年。ECSCはシューマン＝プラン（1950年）をもとに、フランス、西ドイツ、ベネルクス3国、イタリアの6カ国が参加して発足し、石炭と鉄鋼を共同で管理運営することを約束した。

以上より、c → b → aが正しいため、正解は⑥である。

B

問4 30 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

キューバとアメリカ合衆国との関係に関する穴埋め問題。出題分野はアジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題，米ソ両大国の動揺。キューバ危機は，冷戦において米ソが最も激しく対立した出来事であり，センター試験にもよく出題される。しっかりと内容を確認しておこう。

ア **カストロ**が入る。アメリカは封じ込め政策の一環としてラテンアメリカで反共体制を形成し，キューバでは親米の**バティスタ政権**が独裁を行っていた。カストロは腐敗したバティスタ政権に対して反乱を起こし，1959年にバティスタ政権を打倒した（**キューバ革命**）。

イ **ソ連**が入る。社会主義を宣言したキューバはソ連に接近し，ソ連はキューバにミサイル基地の建設を図った。アメリカはこれに反発してキューバを海上封鎖し，米ソの軍事的緊張が高まった（**キューバ危機**）。ちなみに，キューバ危機においてソ連がアメリカに対して妥協したことは，中国のソ連に対する不信感を強め，このことで一層深刻化した中ソ対立は公開論争に発展した。

以上より，正解は①である。

問5 31 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

第二次世界大戦後の紛争や国際関係に関する問題。出題分野は①，③，④アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題，②米ソ両大国の動揺。20世紀後半の国際関係に関しては，東西の冷戦の構造と，中東におけるアラブ諸国とイスラエルの対立がよくとりあげられる。それぞれについてしっかりと復習しておこう。

① 誤 第4次中東戦争で，**アラブ諸国**は石油戦略をとった。アラブ諸国が原油価格の引き上げと，イスラエルを支持する国々への石油輸出の停止，制限（石油戦略）を行ったため，先進国はオイル＝ショック（石油危機）にみまわれた。

② 誤 「プラハの春」に，**ワルシャワ条約機構軍**が介入した。1968年に，チェコスロヴァキアでは自由化の改革である「プラハの春」が始まったが，ワルシャワ条約機構軍の介入により挫折した。

③ 誤 **周恩来**は，ネルーとともに**平和五原則**を発表した。1954年に発表された平和五原則は，冷戦下の米ソ対立に与しない，第三世界の基本理念とされた。ちなみに，エンクルマは第二次世界大戦後にアフリカの独立運動を指導した人物で，1957年にガーナ独立を達成して初代大統領となった。

④ 正 **スエズ運河国有化**が宣言されると，**スエズ戦争**が起こった。1956年のエジプトのスエズ運河国有化に対して，**イギリス・フランス・イスラエル**が軍事侵攻を起こしたが，国際的な批判を浴びて撤退した。

以上より，正解は④である。

問6 32 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

ベトナムの歴史に関する年代並び替え問題。出題分野は、a グローバル化と多極化、b 東西対立と両陣営の形成、c 米ソ両大国の動揺。aのドイモイが採用された年号は難しいかもしれない。しかし、ドイモイ政策が市場経済の導入をはじめとする改革開放路線であるとわかれば、インドシナ戦争やベトナム戦争よりもあとに行われたものだと想像できるだろう。

- a ドイモイ（ドイ＝モイ）政策が採用されたのは、1986年。南北の統一後のベトナムでは、1986年にドイモイ政策が採用され、市場経済の導入など経済改革が行われた。
- b フランスとの間に、インドシナ戦争が勃発したのは、1946年。インドシナ戦争は1946年に勃発し、1954年のジュネーヴ休戦協定でフランス軍が撤退したことで終戦した。
- c アメリカ合衆国が、北爆を開始したのは、1965年。アメリカ合衆国のジョンソン大統領は、1964年のトンキン湾事件を口実に1965年に北爆を開始し、ベトナム戦争に本格的に介入した。

以上より、b → c → aが正しいため、正解は④である。

問7 33 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

国家間の対立や国家の統合・再編に関する問題。出題分野は、①グローバル化と多極化、②中国文明の始まりと中国の統一、③古代の地中海世界、④列強による世界分割。誤っている選択肢を選ぶことに注意する。東ティモールのように、最近に独立した国については知識が少なくなりがちなので注意しよう。

- ① 正 インドネシアから、東ティモールが独立した。
- ② 正 秦王の政（始皇帝）が、中国を統一した。
- ③ 誤 アテネとスパルタの対立から、ペロポネソス戦争が起こった。ペロポネソス戦争では、アテネ率いるデロス同盟とスパルタ率いるペロポネソス同盟が争い、ペロポネソス同盟が勝利した。ちなみに、アテネとマケドニアが対立したのは、カイロネアの戦い。
- ④ 正 フランスとイギリスとの間で、ファショダ事件が起こった。アフリカ大陸の分割において、横断政策をとるフランスと縦断政策をとるイギリスがスーダンで対立し、フランスが譲歩した。

以上より、正解は③である。

（的場光紀，町田佳奈子，谷口昂輝）